

序論)建築現場のたとえ

- 家の建築には設計図・秩序・協力が不可欠
- 無秩序では建物は完成せず、かえって危険になる
- 教会も同じ
 - 個人主義的・自己中心的な礼拝では「神の家」は建て上がらない
- 14:26
 - 礼拝におけるすべての賜物は
「成長(オイコドメー=建て上げ)」のために用いられるべき

I. 異言の使い方

— 理解できなければ建て上がらない —(27-28 節)

- 問題状況
 - 多くの人が同時に異言を語り、意味が分からず混乱
- パウロの指示
 - 二人か三人まで
 - 順番に
 - 必ず解き明かしを伴う
- 解き明かしがない場合
 - 教会では黙り、
 - 自分に対して(靈的に整えられるため)
 - 神様に対して(祈りとして)
- 原則
 - 礼拝は「熱狂」よりも「理解」
 - 共にアーメンできる言葉が大切
- 適用
 - 祈り・証し・奉仕は
教会全体の成長を意識して行う

II. 預言の使い方

— 秩序・吟味・権威への服従 —(29-32 節)

① 順番に語り、他の預言も尊重する

- 預言も二人か三人まで
- 別の人に啓示があれば、先に語っていた人は黙る
- 原則
 - 預言する者も「従う者」
 - 教える者であると同時に、学ぶ者

② 預言は吟味されなければならない

- 盲目的に信じない
- 批判ではなく、真理を大切にする姿勢
- 神様の語りかけかどうかを見分ける責任

③ 吟味の基準は「使徒的権威(聖書)」

- 36-38 節

- 神のことばは一部の人の独占物ではない
 - 14:33a
 - 神は混乱の神ではなく、平和の神
 - 使徒の書簡は
 - 主の命令としての権威を持つ
 - 原則
 - 聖書と一致しない預言は受け取らない
 - 聖書を混乱させる語りかけには注意
-

III. 女性の発言の問題

— 秩序を守るための配慮 —(34-35 節)

- 誤解への注意
 - 女性の祈り・預言自体を禁止しているわけではない(11 章)
- 背景
 - 礼拝中に発言で混乱を起こす状況
- パウロの意図
 - 礼拝の平和と秩序を守るため
- 原則
 - 吟味は必要だが、
無秩序な質問や批判は慎む
- 神様のご性質との一致
 - 平和の神にふさわしい礼拝を目指す

結論) 平和の神の教会(33 節、39-40 節)

- なぜ秩序が大切か
 - 神様は平和の神だから
- 賜物は否定されない
 - 預言を求める
 - 異言を禁じない
- しかし
 - すべてを適切に、秩序正しく
- 目的
 - 教会が一つの神の宮として建て上げられること

応答への促し

- 礼拝に「共に成長する姿勢」で参加しているか
- 自分の満足ではなく、教会全体の徳を求めているか
- 語られるみことばを
 - 開かれた心で聞き
 - 聖書に照らして吟味しているか
- 礼拝の秩序を乱す行動はないか
- 与えられた賜物を
 - 自分のためでなく
 - 教会を建て上げるために用いているか